

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200529		
法人名	社会福祉法人唐津市社会福祉協議会		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所きりご		
所在地	佐賀県唐津市肥前町切木乙548番地1		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年1月28日	外部評価確定日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が住みなれた地域の中で、自宅で生活されているような居心地の良い空間で笑顔があふれるホームにしたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>唐津市社会福祉協議会が母体となるグループホームきりごは、自然豊かな環境の下、住宅地の一角に平成27年4月に開設された。職員全員で考え作成された理念「笑顔であふれる楽しい我家」をかかげ、自宅での生活の延長となるよう、利用者一人ひとりの思いや希望を大切にされた支援に職員全員で努めている。また、地域とのつながりを重要課題の一つとしてとらえ、定期的開催される運営推進会議などを通し、地域の情報を得て、地域の方との交流を深め連携を築くことを目標としている。健康管理や医療面では協力医との連携により緊急時の対応もできており、利用者や家族が安心できる支援が行われている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念「笑顔あふれる たのしい 我が家」常に笑顔で接する事を目標に取り組んでいます	開設時に職員全員で作成された理念は、リビングに掲示され、毎食時に合言葉として利用者と共に唱和され、理念に沿ったケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方が野菜や果物を持ってきてくださったり利用者の方と話をされ、誰もが気軽に着いていただけるように心がけている	自治会に加入はないが、近隣の人たちとの交流はできている。管理者は、運営推進会議などを通し、地域行事などの情報を得て事業所自体が地域の一員として日常的に交流ができるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし報告や話し合い、意見をとり入れているが、まだ不十分である	運営推進会議は区長・地域老人クラブ会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族の代表等多数の参加を得て定期的に開催されている。会議では日常の取り組み状況の報告にとどまらず、各委員から質問や意見が出される等、ホームの実情を理解してもらうようにし、議事録もきちんと整備されている。	事業所として目指している運営推進会議の活用方法について、今後も引き続き検討し、より良い会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との密な連絡とは行かないが、何かあれば報告連絡を行っている	市の担当者とは、運営推進会議の参加もあり、協力関係はできている。利用者に関する相談に出向いたり、市の研修会の案内があれば参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないよう取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルが作成され、また研修会などに参加し、拘束をしないケアを実践している。日中、玄関の施錠はせず利用者の行動を妨げない支援を心がけたり、職員は個々の事例に応じ介護の方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加しているが、所内研修は開催予定にしている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加できていない為、今後研修に参加して活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明行い理解、納得していただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している	相談・苦情の受付体制・外部機関の明示・苦情処理に関しては、契約時に説明し、玄関にも閲覧できるよう掲示している。また、玄関入り口にも意見箱を設置しているが、現在までまだ投稿はない。家族とは日頃から意見が言いやすい関係づくりに努め、出された意見は運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、管理者会議などで検討している	管理者も日常の業務に携わり、普段から職員と話しやすい環境づくりに努め、信頼関係を築いている。月1回の職員会議を行い、出された意見や要望は母体となる法人の代表者に伝え、運営に活かされるよう反映がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足であり休日出勤を行ってもらいながら運営している状況ではあるが、今後職場環境の整備に努めて行きたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し全員が研修に参加する機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて交流、勉強会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやフェイスシートの活用にて職員へ周知し、ご本人の不安や要望に耳を傾けながら安心していただけるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談や入所申し込みをされた際に不安や要望をお聞きし対応に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の意向を取り入れ支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を作って行きたいと思っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人やご家族様の関係を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様との関係が途切れないように支援していますが不十分である	本人がこれまで大事にしてきた関係については、日常会話や家族からの情報を得て支援につなげていこうと努力している。面会に来られた方には、くつろいで過ごしてもらえるよう配慮し、馴染みの美容室利用には職員が支援している。	事業所として目指している支援について今後も引き続き検討し、より積極的な支援につながるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様、皆さん仲良くされています		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時までの支援で終わりました		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望、暮らし方の把握に努めています	入居時に得た本人の性格や生活歴の情報をもとに、日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。伝えられない方には、表情や動作を観察し本人主体のケアに努めている。知り得た情報は職員間で共有し、本人本位のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやフェイスシート、ご本人や家族様との会話の中からお聞きし把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況など把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時本人様とスタッフと面談行い、ご家族様に連絡し、意向の確認や情報の共有を行っている	利用者や家族の要望を基に、利用者本位の現状に即した介護計画が作成されている。担当者会議も家族の参加で確実に行われ、評価や計画の見直しもきちんと行われている。毎日のケース記録も丁寧に記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが行う毎月の計画評価を確認し、介護計画の見直しの必要性を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後取り組んでいきたい		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を活用し支援していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、又は緊急時の受診や電話にて相談を行い連携を図っている。及び他科受診などの受診介助を行い症状の説明を行い適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に家族・利用者に同意を得て、月2回の協力医の往診を支援している。利用者の状態の変化や緊急時には、いつでも適切な医療が受けられるよう連絡体制が整っている。他科受診に関しては職員で介助を行い、結果はその都度家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員不在の為かかりつけ病院へ電話にて相談、情報、気づきを報告を行い利用者が適切な受診が受けられる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は看護師またはソーシャルワーカーとの情報交換を行い利用者が安心して治療出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やご本人の意向や事業所で出来る事を十分に説明し重度化や終末期に向けた方針等、早めに話し合いを行いたいと思っている	まだ開設して1年足らずで事業所の体制を考慮し、看取りの経験はないが、入居時に事業所が対応できるケアについて説明を行ない、本人や家族の意向を踏まえながら、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応としてはマニュアルの作成を行っているが、定期的な訓練は行ってない為、今後は訓練を行い実践力を身につけて行きたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消火、非難訓練やマニュアルにて非難、通報等の連絡体制や地域の方の協力体制をお願いしている	消防計画に基づき昼間と夜間を想定した防災避難訓練が年2回計画され、3月にまた開催予定である。まだ開設して1年足らずであるが、消防署や地域住民の協力も得て行われている。職員は緊急情報装置、消火器の使い方の手順も熟知できている。事業所内に水の備蓄などができていないことについて、管理者は今後の課題としてとらえている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重し言葉かけを行い対応している	利用者の尊厳や願いを最大限に尊重することを意識しながら、日々の支援に取り組み、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう努めている。また、ホーム便りなどの写真記載に関しては家族に承諾をいただき、個人情報の保護や秘密保持は運営規程どおりに実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が事已決定できる様に働きかけるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその方のペースで過ごしていただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類更衣の際はご本人の好みで選んでいただいています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が行っている	レストランから届く食事ではあるが、ご飯は施設で炊き上げ、副菜も温かいものがいただけるよう工夫されており、上品な味付けで旬の野菜を取り入れた色彩豊かな食事が提供されている。日曜日は利用者の希望の献立を聞き、職員が調理し提供している。職員は利用者と一緒に食事を摂りながら見守りや食事介助が自然に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランス、状態にあった食事を支援していますが、水分量の確保が勧めているが十分ではない、飲み残しがある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、声かけ行いオムツの使用を減らすように支援している	個別の排泄チェック表を作成している。排泄パターンを把握し、昼夜ともに利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導を行い、自立支援に向けたトイレでの排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを提供、水分量の少ない方でも飲み物を工夫、毎日のテレビ体操を行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯を決めた支援を行い週2回の入浴を行っています	入浴は、週2回を基本としているが、利用者の希望があれば、入浴回数も柔軟に対応できる。入浴を拒む方には、入浴日をずらしたり足浴などで対応している。脱衣場は温度管理がされ、職員は羞恥心にも配慮しながら介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況、体調に応じ休息や安眠に努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと服薬していただき、説明書にて目的や用法、用量の理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今後検討し楽しみのある生活が出来るようにしたい		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出支援は出来ていないが、近くの介護施設へ出かけての交流や初詣に出かけました	日常的な外出支援は寒い時期にはできていないが、希望があれば近くの店舗まで買い物に出かける等している。春になれば、近くの中学校跡の桜を見に行ったり、鷹島橋までのドライブなどが計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者様がお金は所持されていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話をされる事はあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂で皆さんくつろがれています。季節感を採り入れてながら居心地の良い空間になっていると思います	一日の大半を過ごすリビングは、テーブル・椅子が設置され、利用者はお気に入りの場所でテレビを觀賞したり思い思いに自由に過ごせる工夫がなされている。リビングの壁には手作りの貼り絵が掲示され、季節感が感じられる。また加湿器や空気清浄機などが設置され、快適に過ごせる環境づくりがなされている。浴室、トイレ共にきれいに掃除され、不快な臭いもなく清潔な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらも一人ひとりの居場所が出来ていると思います		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやチェストは事業所で準備しているもので、その他の物はご自分の物を使用されています	居室には馴染んだ品物の持ち込みに制限はない。備品として設置されているチェストの上には、家族の写真や花束などが飾られている。掃除も行き届いており、利用者が居心地よく安心して生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今後、もっと工夫し一人ひとりが「できること」「わかること」を活かしていけるようにしたい		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない